

「Open Service Architecture®」により ポストコロナの新しい金融IT像を実現

2021年7月1日、株式会社NTTデータ(以下、NTTデータ)は、バンキング統括本部内に「OSA推進室」を新設した。本稿では、その基本戦略となる「Open Service Architecture®」の解説と、OSA推進室のミッションや構想等について紹介する。

ポストコロナの新しい金融IT像を見据えて

NTTデータは2020年10月7日、「金融ITオープン戦略」として、わが国の金融ITのオープン化を推進し、オープンイノベーションを促進するための取組みとその標準アーキテクチャとなる「Open Service Architecture®」を発表した。

「Open Service Architecture®」のコンセプトは「Open」。「Open Platform」上に取り揃える「Open API」を活用して、「Open Innovation」を実現していくことをゴールとした取組みである(図1)。

「Open Platform」には2つの含意がある。一つは、メインフレームで構築した銀行基幹システムの基盤をクラウド等のオープン基盤に載せ替

えることで、ハードウェアのコストを低減する取組みである。

もう一つは、新たな金融サービスの戦略的な展開領域でIT基盤のクラウド化を進めていくことである。

自由度の高いクラウドと金融システムに当然求められるセキュリティ・信頼性の確保に当たり、NTTデータは安心安全なクラウド活用のためのソリューションを整備することで、クラウド化を推進していく。

「Open API」は、金融システムを構成する様々なプレイヤー(銀行、Fintechベンチャー、ITベンダー等)が相互連携していくためのAPIの展開である。NTTデータはセキュアに利用できるOpen APIを多数取り揃えた最大のAPIマーケットプレイスである「API gallery™」を提供し、多様なプレイヤーの参画を促すことで、新たな

サービス創出の活性化を狙っている。

最終的なゴールである「Open Innovation」の実現は、NTTデータが提供する上述の「場」において、多様



株式会社NTTデータ
バンキング統括本部
OSA推進室長 新村 哲也氏

なプレイヤーが織りなす連携の中から新たな価値が生み出されることを促進したいという考え方である。金融機関×行政等、クロスインダストリーの業際ビジネスが今後の肝であり、NTTデータはその媒介役を担う。

OSA推進室の新設

これらの新しい金融IT像の実現に向けて2021年7月1日にOSA推進室を設立した。OSA推進室は「Open Service Architecture®」実現に向けた金融分野横断の全体推進を担うOSA推進担当と金融機関店舗におけるOMO(Online Merges with Offline)や金融機関店舗のスマート化を推進するチャンネル企画担当の2つから構成される。ここでは「Open Service Architecture®」の全体像の解説と共

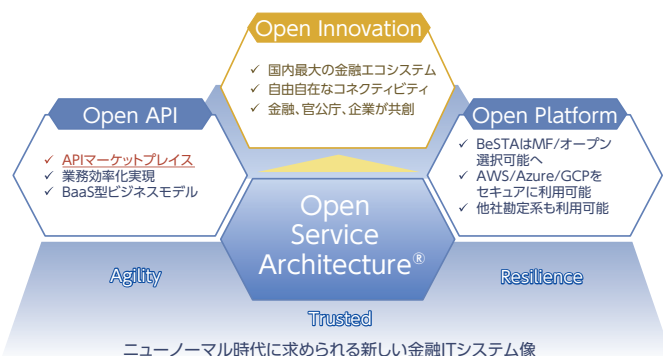


図1 「Open Service Architecture®」コンセプト

に、それを実現する為の OSA 推進担当のミッションを紹介する。

「Open Service Architecture®」の6領域

「Open Service Architecture®」では金融機関の標準的なアーキテクチャを定めている。現時点では、特に銀行業界の標準的なアーキテクチャを6領域に分類して定めており、他業界についても今後策定予定である。

1) ユーザフロントエリア

エンドユーザである法人・個人にとって、金融サービスの入り口（タッチポイント）となる迅速なサービス提供が求められるエリアである。インターネット・スマホの普及を経て、タッチポイントは多様化し、その重要性が増している。

2) ブッキングエリア

金融サービスの根幹となる勘定の記帳を行う確実性と安全性が求められるエリアである。このエリアでは NTT データは勘定系アプリケーションの BeSTA を提供しており、システム共同利用のスキームを通じて、幅広い銀行に利用していただいている。

このエリアの今後の主たる課題は、一層のコスト低減である。NTT データでは新たに提供する『PITON』フレームワークによりメインフレームだけでなくオープン基盤を選択肢の一つとして加えていくことで、これらの課題解決を図っていく。

3) コネクションエリア

ユーザフロントエリアと、ブッキングエリアの間で両者を接続する接続容易性とセキュリティの両立が求められるエリアである。

NTT データの ANSER サービスは全国の金融機関の 99% が接続してお

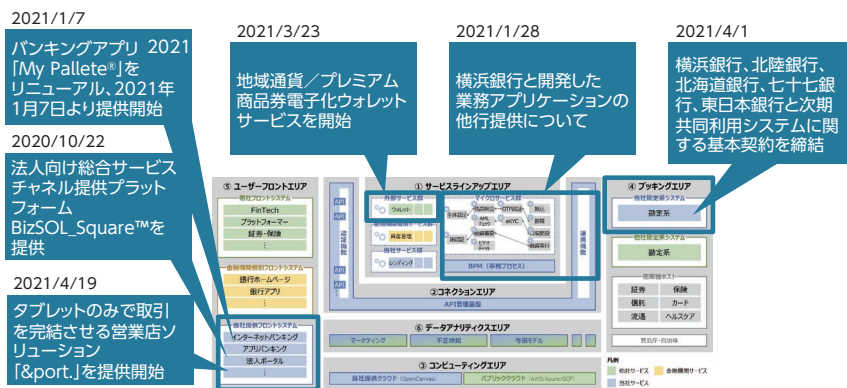


図2 「Open Service Architecture®」領域毎のオフリング展開

り圧倒的な実績がある。ユーザ認証等のセキュリティ機能は、日進月歩のセキュリティ脅威に対して、金融機関がそれぞれに対策を打つのは事実上不可能であり、ANSER がその対策を一手に引き受けて進化を続けている。

4) サービスラインアップエリア

コネクションエリアの上で、様々なプレイヤーが提供するマイクロサービスを API という形でラインアップし多様なサービスを他システムに大きな影響を与えず提供するためのエリアである。金融機関やサードベンダーにとっては、このエリアが魅力的であることが、新たなコラボレーションや新しいビジネス創出の鍵となる。

5) データアナリティクスエリア

金融システムあるいはその外部で流通するデータを蓄積・分析する、ビジネスの差別化や競争優位を実現するために不可欠のエリアである。様々なプレイヤーの連携が加速する中、金融機関がユーザ像を的確に認識し、ニーズをつかむのは容易ではないが、このエリアにより勘定取引のデータだけでなく様々なデータを収集し、多角的に分析することを可能にする。

6) コンピューティングエリア

システムの基盤を提供する堅牢性

とレジリエンスを必要とするエリアである。NTT データは金融サービスに求められる高い信頼性・透明性を確保したクラウドサービス OpenCanvas を提供している。また、AWS・Azure・GCP 等のパブリッククラウドを利用する場合、A-gate により金融システムに求められる高いセキュリティを実現することが可能である。

標準アーキテクチャに沿ったオフリング推進

NTT データの金融分野では既にこの「Open Service Architecture®」の6領域のオフリング展開が進みつつある（図2）。

新村氏は次のように抱負を語る。「ポストコロナで、今後金融機関においてもデジタルシフトへの対応が強く求められています。デジタルへの適応性と機動性を持ち、安心・信頼を両立した金融 IT 実現のために NTT データは新しいサービスやオフリングを『Open Service Architecture®』のアーキテクチャに沿った形で提供予定です。『API gallery™』等を活用した新しい金融エコシステムの発展により、新しい金融 IT の姿を創っていくことに貢献していきます」。